

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2012年 1月15日

派遣者氏名（専門分野）	伊藤一馬（東洋史学）
-------------	------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	北宋における地方軍事体制と情報伝達
-------	-------------------

派遣期間

2011年9月5日 ～2011年9月19日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	中華人民共和国	蘭州市	蘭州大学・甘肅省博物館	馮培紅（蘭州大学副教授）
	同上	銀川市	西夏博物館	同上
	同上	海原県	天都寨址	同上
	同上	固原市	平夏故城址、固原周辺（定川寨址・三川寨址・天聖寨址・高平寨址）	同上
	同上	西安市	西安市内（西安碑林博物館・陝西省歴史博物館）	同上
	同上	北京市	北京市内	同上

派遣先で実施した研究内容

報告者は、本プログラムによる調査期間中、以下の研究内容を実施した。

○北宋—西夏国境地帯を南北に越える交通路の調査。具体的には蘭州から銀川へ北上するルートと、銀川から海原・固原を経て西安へ南下するルートである。

○北宋—西夏国境地帯である陝西地域の景観調査。

○北宋—西夏国境地帯に建造された、北宋の軍事防衛施設である堡寨（とりで）址の調査。具体的には天都寨（海原県）・平夏故城・定川寨・三川寨・天聖寨・高平寨（以上、固原市）の各堡寨址を調査した。当時のとりでの規模・立地条件・構造、さらには周辺の高台にある烽火台も確認することができた。

## 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

本プログラムにおける当初の目的は、北宋の対西夏防衛戦略を検討する上で必要不可欠な北宋—西夏国境地帯の地理的状况（交通路や景観など）や多数の堡寨の機能・役割を把握することにあつたが、それは研究計画通りに実施することができた。

成果としては、北宋—西夏国境地帯すなわち陝西地域が、まぎれもない農牧接壤地帯であると確認できたことがまず挙げられる。もちろん、現在の景観が北宋期にそのまま当てはまるわけではないが、少なくとも北宋期の陝西地域で農耕と牧畜（あるいは遊牧）の両方が可能であったことは確実だと考えられる。

また、堡寨址を実見することによって、従来の堡寨に関する見方を再検討する必要性がより強く感じられた。従来は、規模や立地条件などの点で堡寨が多種多様であることは認識されていたものの、その機能や役割については一括りにして論じられる傾向にあつた。本調査で各堡寨の規模（数十メートル四方～数百メートル四方）・立地条件（平地の中心／山沿いなど）などの差異を明確に確認できたが、その差異を実感すれば、到底それらが同じ機能や役割を果たしていたとは考えられず、規模や立地条件などの諸条件を考慮した上で、各堡寨の機能や役割を個別に検討する必要があるだろう。

さらに堡寨の周辺の高台には烽火台の址も複数確認することができた。堡寨から目視できる範囲に烽火台があつたという事実は堡寨が烽火台を利用した情報伝達を行っていたことを示している。残念ながら本調査で実見した堡寨には内部に烽火台を確認することはできなかったが、天聖寨の外側に烽火台にも見えるものがあり、堡寨は烽火による情報を受け取るのみならず、烽火による情報を発信していた可能性も高いと考えられる。

## 派遣後の研究発表の予定

2011年11月19日に大阪市立大学で開催された第144回宋代史談話会にて「北宋陝西地域の堡寨と烽火台——現地調査報告を兼ねて——」と題する口頭発表を行った。

この他、投稿論文としてまとめ、『東洋学報』『史林』『中国——社会と文化』などの全国誌に投稿する予定である。